

(2) 義務教育9年間の連続性を生かした教育実践

一般的に小学校と中学校の間には、下の枠内に示すような差異があり、「中1ギャップ」と呼ばれるような不適應の状況が生じるとされています。また、教職員の側にも小学校と中学校の間に意識の差が存在します。

【主な小・中学校段階間の差異】

- ① 授業形態の違い（小学校：学級担任制／中学校：教科担任制）
- ② 指導方法の違い（小学校：丁寧にきめ細かく指導、比較的活動型の学習が多い／中学校：小学校に比べてスピードが速い、講義形式の学習が多い）
- ③ 評価方法の違い（小学校：単元テスト中心、関心・意欲・態度が重視される傾向／中学校：定期考査中心、知識・技能が重視される傾向）
- ④ 生徒指導の手法の違い（中学校では思春期を迎える生徒を指導することもあり、小学校と比較して規則に基づいたより厳しい生徒指導がなされる傾向）
- ⑤ 部活動の取り組み方の違い（放課後のみならず休日の活動を行う機会も増えるなど、子どもの生活が劇的に変化すること）

－ 中央教育審議会答申（H26.12.22）より －

玉名市では、発達の連続性をふまえて児童生徒を理解するとともに、指導の系統性・連続性を重視します。小中学校の教職員の共通理解のもと、市内すべての学校で小中一貫教育を充実させるために、次のような方針を定めています。

かしこく

きめ細やかな指導で
学びと育ちの基礎を培います。

ゆたかに

自分の目標に向かう自主性を
育成し、小中学校の円滑
な接続を行います。

たくましく

リーダー性や個性の
伸長を図り、進路希望
の実現に努めます。

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
基礎・基本期				習熟・接続期			充実・発展期	
<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任や少人数指導等によるきめ細やかな指導により、生活や学習の基礎をしっかりと身に付けさせます。 ・幼稚園や保育所と密に連携し、個に応じた指導を充実させます。 				<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制の一部導入や小中教職員の協力による授業を行い、学習意欲を高めます。 ・小小・小中の交流を充実させることで視野を広げるとともにコミュニケーション能力の伸長を図ります。 ・社会や生き方について考える力の基礎を育てます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活習慣づくりや自学自習など、自律的態度を身に付けさせます。 ・生徒会活動の充実を通して、自主性や主体性を育てます。 ・志高く生きる心情を育てます。 	

「玉名学 探究」の実施

「玉名学 礼節」「玉名学 日本語」の実施

エンジョイ・イングリッシュの実施

特別支援教育支援員による支援の実施